沙沙那美

滋賀県護国神社
社報
発行所
滋賀県護国神社社務所
〒522 彦根市尾末町1番59号
電話0749(22)0822
印刷　田中印刷所

奉祝 天皇陛下御在位六十年

昭和50年5月28日当神社にご参拝賜わった時の
両陛下

ご挨拶

宮司　山本淺次郎

本年は我が国にとりまして天皇陛下御在位六十年と云ふ目出たい年を迎え全国民挙ってお祝い申し上げる喜ばしい年であります。

本年は終戦後満四十年に相当りますので、天皇陛下よりの幣饌料御下賜の内示をいただきましたので来る十月五日の秋の御祭に併せて臨時大祭を執り行ふ予定でございます。

又、来年は御創立百十年目に相当りますので記念事業として御本殿の御屋根損傷の為、銅板葺替を計画致しております。今後の神社の維持運営等に関しましても相当額の護持基金の必要に迫られてまいりました。つきましては御屋根葺替資金並に護持資金等御遺族の皆様方を始め大方諸賢様方のお力にお縋り申さねばなりません。其節には何卒宜しく御高配御助力賜はります様伏して御願ひ申し上げます。

御本殿御屋根葺き替え決定される

葺き替えが決定した御本殿御屋根

昭和三十二年に葺き替えられた御本殿の御屋根も、近年傷みが著しく、昨年末から今春にかけてとうとう雨漏が発見され、修復について検討をして参りました結果、先の役員会に於て銅板にて葺き替えることに決定致しました。

つきましてはその資金のための募金となるわけですが、国や県からの補助が一切期待出来ない現時勢の中で、将来を展望する時、今後の維持管理について一抹の不安を感ぜずにはおれません。こういったことを踏まえた上での勧募となり、いずれご遺族崇敬者の皆様方にご協力をお願いすることになると存じますが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

例大祭斎行

自民党県議団参拝される

昨年の春秋二季の大祭も、諏訪三郎奉賛会長、守田厚子県遺族会長、小林隆崇敬者総代を始め、ご来賓・各種団体代表ご遺族崇敬者多数のご参列を得て盛大且つ厳粛裡に斎行致しましたことをご報告申し上げます。

特に昨年四月五日春の大祭より、全国に先駆けて自民党県会議員の方々には「みんなで護国神社に参拝する県会議員の会」（代表小島幸雄県議）を結成され、相揃ってご参拝いただいています。このような地方議員の動きは全国でも初めてのことで、新聞等でも報じられ注目を集めました。

ご承知のように県議会では去る五十四年、全国十五番目に公式参拝議決をされています。

今般の護国神社参拝は、それを実際に行動で示して実践されたわけですが、当り前のことと言ってしまえばそれまでですが、優柔不断な中央政府に比べて、県会議員各位のご決断に深く敬意を表したいと存じます。

ご代表各位とタスキ掛でご参拝の県議団

能舞台移築について

新聞等の報道で既にご承知とは存じますが、神社社務所内に建てられています能舞台が、このたび彦根城内に建設予定の博物館の中へ移築されることとなりました。

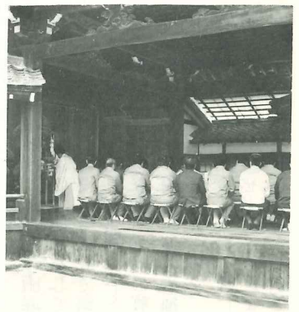
去る四月十一日に解体工事安全祈願祭を執行し、六月末まで工事は続けられました。

この井伊家能舞台は、昭和二十五年当時佐和山の麓井伊神社境内にありましたが、市の郊外でもあり、また損傷著しく維持管理もままならないため、市の中心部へ移築して保存し、併せて市の古典芸能文化芸術の振興を計るべく当神社境内に移されたのです。その後、彦根市民会館を境内に建設を、との要望が市の方で為され、昭和三十八年社務所施設及びこの能舞台をも移築しました。この時期、能舞台の存続維持が再検討され、保存が危ぶまれましたが、簡単に先人の文化遺産を廃棄処分には出来ず、社務所内にとり込む形で保存されたのです。

そして今般、彦根城博物館建設となり、表御殿復元の必要上から御殿跡の発堀調査の中で当時の能舞台の遺構が発見され、注目を浴びて今回の移築となった訳です。

かって十年程以前までは、市文化祭行事の一環として盛大な薪能が開催され、社務所は見所となり、大勢の見物者で賑わいを見せていた頃もありました。長い年月の間には社務所施設の一部のように親しんできた能舞台が無くなることは実に寂しいことですが、立派な文化遺産として表御殿復元・博物館完成後はその中心に据えられて生まれ変わります。以前よりさらに多くの市民や愛好家の人々に可愛がられることを望んで止みません。

また、移築後の後始末につきましては、今回の附帯工事に伴ない、社務所南側部分の連絡通路でもありました廊下、収納庫代わりに使用していました楽屋、舞台入口、そして外側の納屋等が取り壊されたり撤去されたりで、現状のままでの復旧では非常に困りますから、現在彦根市に補償も含めての後始末を完全に遂行するよう要望しています。



能舞台解体工事安全祈願祭

昭和五十九年 第八回 みたま祭から

昨年のみたま祭も、皆様方からの献燈約三千五百燈を掲げて盛大に執り行なわれました。

初日十三日県遺族会青壮年部の靖国神社国家護持と公式参拝の早期実現・遺骨収集の促進を訴える「平和祈願リレー行進」一行が終着点である当神社へ到着して幕開けとなり、十五日までの三日間、夜十時の消灯を惜しむようにたくさんの人々がお参りされました。

十五日昼の全国戦没者追悼慰霊祭には、西ドイツからの観光客も飛び入りに参列し、祭典後のみそ汁とおにぎりの直会（なおらい）にも出席して素朴な日本の味を楽しみつつ、平和な日独会談を致しました。

境内清掃奉仕記録抄

昭和五十九年

三月二十七日　八日市市婦人部十四名
四月　一　日　彦根市銃剣道連盟　銃剣道スポーツ少年団　十三名
四月　三　日　彦根市遺族会春大祭　準備
四月　五　日　彦根市遺族会春大祭　後片付
四月二十八日　彦根市尾末町尾寿衛　老人クラブ　九名
五月　二十日　彦根市高宮町婦人部　十四名
六月　十五日　犬上郡多賀町婦人部　二十名
七月　六　日　愛知郡愛知川町婦人部　二十八名
七月　九　日　守山市婦人部二十九名
八月　十三日　県青壮年部　みたま祭　準備
八月　十六日　県青壮年部　みたま祭　後片付
九月二十九日　草津市婦人部　十名
八日市市婦人部十五名
十月　三　日　彦根市遺族会秋大祭　準備
十月　五　日　彦根市遺族会秋大祭　後片付
十月　八　日　愛知郡愛東町婦人部　二十六名
十月　十七日　愛知郡秦荘町婦人部　二十三名
十一月　六　日　愛知郡湖東町婦人部　十八名
十一月二十五日　彦根市城南学区婦人部　七名
十二月　三　日　彦根市尾末町尾寿衛　老人クラブ　八名

昭和六十年

三月二十八日　彦根市尾末町尾寿衛　老人クラブ　十四名
三月二十九日　八日市市婦人部十五名
三月三十一日　彦根市銃剣道スポーツ　少年団　十三名
四月　三　日　彦根市遺族会春大祭　準備
四月　五　日　彦根市遺族会春大祭　後片付
五月二十六日　彦根市高宮町婦人部　十一名

雑巾奉納　近江八幡市武佐婦人部

サイパン・テニアン 戦跡巡拝に参加して

禰宜　山本賢司

昨年十一月十二日～十四日、県遺族会青壮年部主催中部太平洋方面戦跡慰霊巡拝団に参加する機会を得ました。今回は先発隊の遺骨収集も実施され、武村県知事も初めて同行してサイパン島での慰霊祭に参列されました。

サイパン・テニアン両島に於ける戦跡慰霊祭は、武村知事及び現地州政府関係者参列の慰霊祭と、青壮年部員でもある日野町伊藤了円氏の仏式慰霊法要、そして小生担当の神式慰霊祭（サイパン島スーサイドクリフにて）とにより、しめやかにいとなまれました。

これらの慰霊祭の中で読み上げられるご遺族方の追悼文は、戦争の語り部として涙ながらに朗読されるだけにそれぞれに胸を打ち、参加者一同の悲しい記憶と懐旧の想いを甦らせ、涙腺を刺激せずにはおきませんでした。と同時に、だからこそ、残された者の悲願・責務として〝靖国神社を国の手で護持して欲しい〟という皆様方のお気持ちがひしひしと感じられ、幾度となく熱い思いがこみ上げてまいりました。

亡き肉親への哀惜の念、或いはまた幼い頃の記憶の父への慕情、これらが実際に現地の気候風土の中で、土を踏みしめて沸き起こってくるだけに、その感動の雰囲気に強い感銘をうけました。

今回の戦跡慰霊巡拝参加に際し、報告記をと考えましたが、小生の拙い文章よりも、幾つかの追悼文の内から県遺族会青壮年部副部長野村さんの文をご紹介して、南の碧い海に向かって「あなたー」「オヤジー」「お父さん」と叫ぶご遺族方のご心情に触れていただく方がよろしいかと存じ、ここに掲載させていただきます。

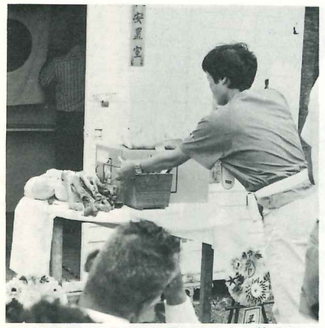
〜〜〜〜〜〜◇〜〜〜〜〜〜

夏になり夾竹桃の花が咲き始めると、あの忌まわしい戦争を思い出し、父の面影が脳裏をかけめぐります。

昭和十九年七月十八日「中部太平洋方面にて戦死」の公報を受けた時の母の気持ちは、父の死が信じられず、ひょっこりと「只今、いま帰ったぞ」父の声が聞こえる様な毎日が続いたことでしょう。母の苦労はその日から始まった。私は子供ながらに母や祖母が大変な苦労をしている事がよくわかりました。

私達三人姉妹は、祖母より「おまえ達のお父さんは、サイパン島へ上陸寸前に船上で死んでしまったんだよ。お父さんは泳げもしないのに、大きな広い海に放り出されてしまって、可哀相に……」と床に入ると毎日の様に聞かされ育ちました。幼かった私達は祖母の言う事がわからないままに「泳げなかったら何かにつかまっていたら死なんでもよかったのにね」と言うと、祖母は横を向き、涙をぬぐっていたのを今でも忘れる事は出来ません。そんな祖母や母の姿を見て、私達三人は育ちました。

一度でいいから、父の戦没地サイパンへ行ってみたいと夢にまで見ていました。



先発隊青壮年部の手で収集された八体の遺骨

幸いにして、県遺族会青壮年部主催の戦跡慰霊巡拝に参加させて頂く事が出来、父と四十年振りに逢えた事を感謝しています。

お父さん、しげ子は逢いに来ましたよ、母と一緒に逢いに来られなかったのが心残りですが、家族と二人の妹、伯母達の写真をしっかりと胸に抱き逢いに来ました。お父さん、一言でいいから何か言って下さい、しげ子と呼んで下さい。四十年間も一人にして、淋しかった事でしょうね。もっと早く迎えに来ればよかったのに、遅くなってごめんなさい。さぞかし、つらかったでしょう。湖国に残した母や妻、子供達に逢いたかった事でしょう。お父さんは、この地の土を踏む事なく逝ってしまった。私はこの地にしっかりと土を踏みしめ、やっと来たんだと感激しました。今日から三日間、お父さんと積り積ったお話をゆっくりとしましょうね。お母さんの良きお土産になる様にいっぱい話して下さい。

覚えていますか？お父さん、福知山へ面会に行った時の事を!!妹を頭上へ高々と抱き上げた時の事を……。嬉しそうな父の顔が昨日の様に思い出されます。お母さんやおばあさんの言う事を良く聞いて、いい子になるんだよ…と私の頭をなでてくれましたね。床屋へ行き、ぐずったと言って怒って〝さんばつもしないで〟連れて帰り納屋の米俵の上に乗せ、戸を閉めてしまった事を……。田圃へ妹とおやつを持って行くと、妹を膝に座らせ、嬉しそうに食べていましたね。末妹は父の顔は知らずに育ちました。その妹の名前は絹枝です、一度でいいから絹枝と呼んであげてほしかった。その妹が「私もお父さん知ってるもん、ちゃんと見ていた」と言って、母や祖母を泣かせたものでした。

私達姉妹もそれぞれ二人の子供を持つ母となりました。子を持って親のありがたさがわかりました。父の愛に薄い私達ですが、その分、母と祖母が補ってくれ、今の幸せがあると思います。

たった数枚の父からの便りを私は大切にしまっています。その文面には、祖母を頼む、子供達を頼む、靴の手入れを頼むと書かれている。母の事については体に気をつける様に……としか書いていない。母には父の気持ちは通じていたのでしょう。そんな母が家族を守り田圃を耕し、身を粉にして働いてくれたお陰だと、母には感謝の念でいっぱいです。

戦争の傷跡も、人々の心から忘れられようとしている今日此頃、私達は、平和の礎となられた、多くの戦亡者皆様の死を無駄にする事なく、我々青壮年部が精一杯努力し、靖国を守って行こうではありませんか！

お父さん、母をいつまでも見守ってあげて下さい。

お父さん、安らかに眠って下さい。いつか、きっと逢いに来ます。

昭和五十九年十一月

栗東町　野村しげ子

散策 (六)

「拓魂碑」満蒙開拓物故者慰霊碑

拓魂碑　碑文

顧みるに満蒙開拓事業は昭和七年より二十ヵ年百万戸移住計画に基づき民族協和の理想実現と日本民族の発展を目ざした当時の国策であった。

この要請にこたえて本県送出の四十四個団隊千八百余名の開拓者たちは、現地の苛烈な気候風土を克服しあらゆる困苦欠乏に耐えながら営々と未懇の沃野を拓き着々その成果を挙げつつあった。

然るに、昭和二十年八月、終戦によってその雄図は挫折したのみならず異境で遭遇した開拓者の末路はあまりにも悲惨であった。戦火に追われ混乱する治安のなかで一家は離散し母子相擁して命を断つ者、逃避放浪の末生死不明の者、ひたすら帰国を夢みつつも遂に飢餓と病魔に斃れた者四百余名を数え、この渦中に可憐な十四・五歳の青少年義勇隊員の多くもあたら青春を犠牲にしたのである。

爾来二十幾星霜辛うじて生還した拓友をはじめ同志相計り多くの賛同を得て、此の地に拓魂碑を建立するに至った。

悲運の肉親同胞を偲び、諸霊の宴福を祈願するとともに、われわれもまたこの碑に集い、祖国永遠の平和と弥栄を翼うものである。

昭和四十七年十二月九日

滋賀県満蒙開拓物故者
慰霊碑建立委員会

慰霊祭で玉串拝礼をされる辻清代表

この拓魂碑建立に先だつ、昭和三十二年十月二十九日、引揚者有志と滋賀県の後援によって、滋賀会館第三集会室において、満州開拓物故者第十三回忌法要を神式によって慰霊行事を執行した。其の後関係者逢う度に、拓魂碑建立の話は出るが、具体的な計画に至らず十数年の月日が流れていった。

昭和四十六年代に、元食糧増産満州勤労報国農場長で、当時県会議員をしておられた辻清先生の積極的な協力によって、建立委員会が組織され、県保管の送出者名簿や、各団隊代表者会議を数回にわたり開催し、死亡、生存の実態調査をまとめ、建立趣旨の徹底、浄財出費の依頼をしたところ、予想外の御協力を得、また、護国神社宮司さんの御理解により、この聖域に建立竣工したのである。

以来、今日に至るまで、いやこれからも、毎年八月の第一日曜日を拓魂慰霊の日と定め祭典を実施し、今年は第十四回目の拓魂祭を行うことになる。関係者・御理解ある各位の御参詣を御願い申し上げます。

滋賀県拓魂碑奉賛会事務局

竹村国三郎

御篤志

昨年度もたくさんの方々からご厚志を頂戴致しました。ここにご披露致し謹んで御礼申し上げます。

現在彦根市遺族会青壮年部長としてご活躍いただいています森　茂氏には昨年末、ご母堂森よね様と連名で立派なローソク献燈台をご奉納いただきました。

ご参拝の節には是非共お燈明をあげてお参り下さい。

謡曲観世流師範をしておられた長浜市の故中川清先生は、お元気な頃は神社社務所を教場として、山本宮司を始め愛好家の皆さんに謡曲を教えられ、また当神社正月の翁初めの行事にも長年ご奉仕賜はりました。そういったことから、昨年秋奥様が来社され「長い間亡き主人は護国神社へお参りさせてもらいました。主人の名前で何か残したいのですが」と申し出られ、宮司も中川先生と是非ご一緒したい、との希望から高張提燈及提燈台一対を連名でご奉納賜はりました。

彦根市船町の故北川佐一郎氏のご家族北川威佐武氏（甚五郎社長）ご夫妻により「故人の遺志です」と金五万円のご奉納を賜はりました。故北川佐一郎氏は敬神家で、毎朝お参りをされていましたが、昨年十月、残念なことにご他界されました。

山本宮司一家と娘婿北村直重氏には、日頃の神々様への報恩感謝の意味で、拝殿大太鼓の皮の張り替えと、新たに銅長太鼓を調製奉納致しましたが、このいずれの場合も愛知川町の杉本才次氏に調製をお願いしました。杉本氏には献身的な作業調製をしていただきました。厚く御礼申し上げます。

新調奉納された太鼓

参拝フラッシュ

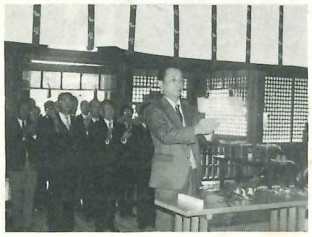
○虎姫町遺族会

毎年恒例として神社参拝をしていただいている遺族会は年間多数ございますが、虎姫町遺族会もその一つで、写真は昨年三月二十三日ご参拝の折のものです。

○彦根金亀ライオンズクラブ

彦根金亀ライオンズクラブにおかれましては常々当神社にはご理解いただいており、また毎年一月の例会の際にはご参拝いただいています。

本年も八日中村善一郎会長を始め五十七名の会員の方々がお参りされました。



○菊花展催される

昨年秋、一ヶ月に亘り、「菊栄会」による菊の展示会が境内に於て開催されました。

近郊在住の愛好家の丹精込めた盆栽懸崖、大輪等見事な菊ばかりで、多数の見物者で賑わいました。

○全国護国神社会

全国護国神社会臨時総会が、昨年近畿地区にて開催されました。七月二十四日当神社へもご参加の皆様方が参拝され、鈴木靖国神社権宮司、野村全国護国神社会会長が玉串奉奠をしてお参りいただきました。

○彦根防衛協会

昨年八月一日、彦根防衛協会（支部長北川九郎兵衛氏）主催による自衛隊の演奏が拝殿前を利用して行なわれました。

編集後期

沙沙那美第六号をお届けします

本号は、御本殿御屋根葺替を含めての御創立百十年記念事業の件と能舞台移築の件についてお知らせしたいと考え、ある程度の決定を待ってから発行を、と思いましたので、例年より発行時期が遅れてしまいました。ご了承下さい。

（禰宜　記）